

ICT委員としての(らしからぬ?)思い出

小坂 敦子(法学部)

コンピュータやオンラインは全般に苦手で、もちろん(?)携帯電話もほとんど使えず、携帯電話でのメールなどは別世界の話です。そんな私ですから、ICT委員に選出された時には私自身びっくりしましたし、なぜ選出されたのか、いまだに不思議です。

ICT委員会に出席してまず困ったのが、委員会で普通に話されているコンピュータ用語が、何のことか見当もつかないことでした。会議を中断するのも気がひけるので、後で尋ねることにしてメモしてみるのですが、けっこうな数になります。たくさん尋ねても理解できそうにもないので、「一つの会議で3単語」ぐらいに限定して教えていただいたりもしました。

これだけコンピュータができない人がICT委員というのは、私には「滑稽で笑えること」だと思えますし、こんな私がこの委員をしてもよいのかとも思いました。しかし、皆さんとても親切で、笑うかわりに、「できない人の視点も貴重です」と励まし続けてくださいました。それで「そうなのか、できないということも貴重なのだ」と自分に言い聞かせながら委員をしていました。

ICT委員をしている間に、暗号のソフトをいくつか試用して、比較し、その感想を伝えるように言われたことがありました。「暗号???'と戸惑いましたが、職員の方たちが親切に教えてください、おかげさまで、一つの暗号ソフトだけは使えるようになりました。(その後、他の会議の資料などで、暗号をかけて送ったところ、私はコンピュータに詳しいという思わぬ誤解が生まれたこともありました。)またICT委員を務めている期間も、その前もその後も、ヘルプデスクの方にはいつも助けていただいています。理解している人に説明するのは簡単だと思うのですが、分からない私に、分かるように説明してくださるので、とてもありがたいです。

新校舎への移転に伴い、名古屋校舎での「思い出を」ということで、当時のことを思い出しつつ、新校舎でのICT委員会も、引き続きできない人の視点も必要だと言ってください委員会でありますように願っています。